

伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

こめやまんえもん
米屋万右衛門

株式会社橋本幸作漆器店

2011年9月発行

INDEX

1. 当社の代表製品	1
2. 当社の概要	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	4
5. これからの挑戦	5
6. 代表者からのメッセージ	5
7. 作成支援士業コメント	6
8. 知的資産経営報告書とは	7

1. 当社の代表製品

朱屋 万右衛門



あーと・きよの



2. 当社の概要

■ 経営理念

「文化は食から、食文化はお箸から」

日本人の食卓にかかすことのできない箸。食文化を支えている箸。私共はその箸を扱う事に誇りを持っています。伝統を受け継ぎ、食文化と共に日本の工芸文化の一環を担っています。

■ 当社の特長

● 一貫生産

当社は蒔絵のデザインを自ら行っています。また、当社は、下塗り、中塗り、上塗り、型蒔絵まで一貫して生産を行っています。

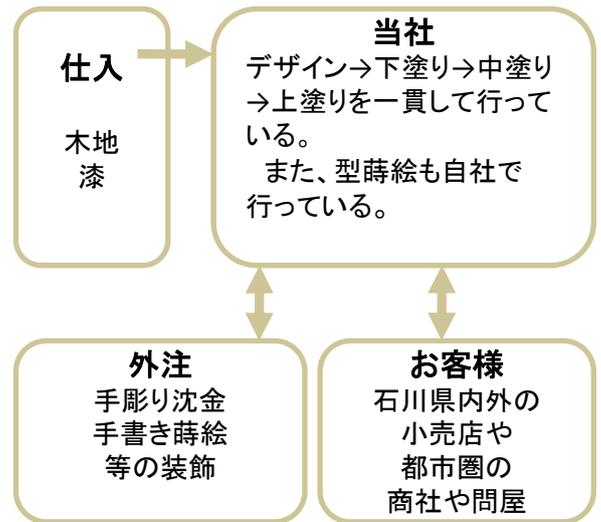
● 塗箸の技術を生かした携帯ストラップ

当社は、装飾を施した箸の頭部分のみを切り取った携帯ストラップを企画販売しています。この携帯ストラップのデザインや企画はすべて社長が行っています。まさしく、これまでの枠にとらわれない現代にあった企画立案であり、当社オリジナルの商品であります。

● 刷毛目や節が残らないきれいでかつ丈夫なお箸をお求めやすい価格帯で提供

当社商品は、下地の丈夫さ(化学塗料)と仕上げの美しさ(漆の品質)を持っていることが特長であります。さらに、長年の研究と開発で「船」という道具による引き抜き塗りで、刷毛目も残らず、きれいに塗っています。

■ 当社のビジネスモデル



■ 企業概要

- 【代表者】 橋本きよ乃
- 【住所】 石川県輪島市気勝平町52-39
- 【業種】 輪島塗・輪島うるし箸
- 【資本金】 200万円
- 【従業員数】 5名
- 【URL】 <http://hashi-hashimoto.com>

■ 沿革

- 大正： 輪島に移住し、米屋万右衛門として米屋を営む。
- 昭和初期： 創業者である橋本幸作が輪島塗の職人に弟子入りする。
- 昭和24年： 塗箸製造業として独立し創業する。
- 昭和60年： 橋本泰二が代表(二代目)となる。
- 平成16年： 泰二の配偶者であるきよ乃が、対外的に営業を開始する。
- 平成18年： 新ブランド、あーと・きよのを開始する。
- 平成22年： 事業を法人化し、株式会社橋本幸作漆器店となり、橋本きよ乃が代表取締役(三代目)に就任する。

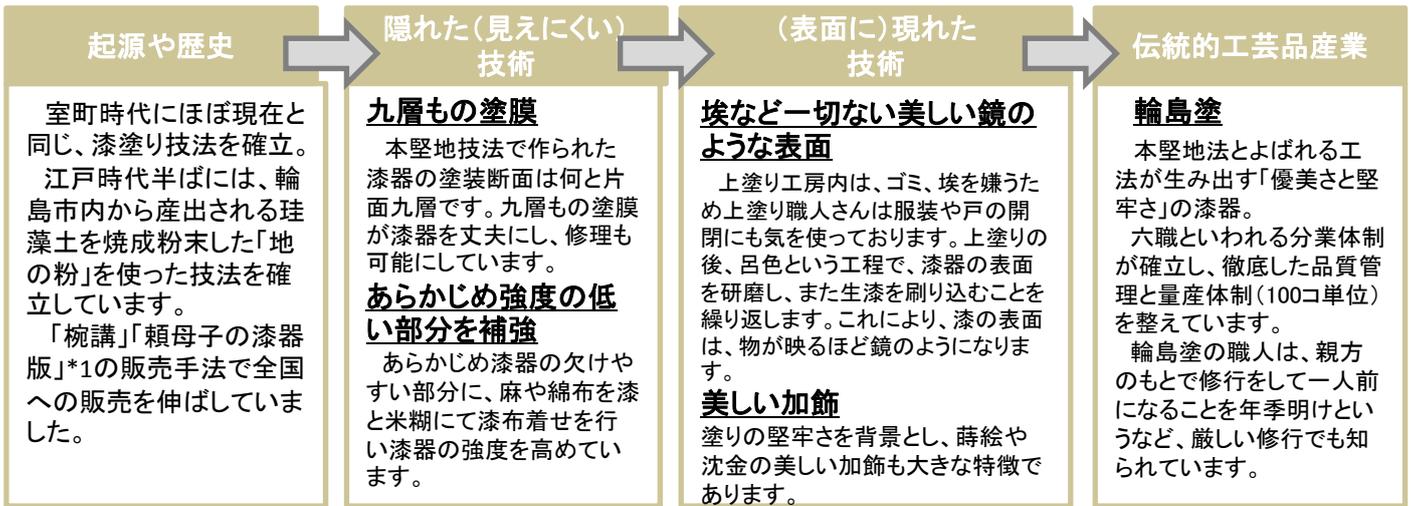
■ 連絡先

- TEL : 0768-22-7110
- FAX : 0768-22-1267
- E-Mail : info@hashi-hashimoto.com
- 担当者: 橋本きよ乃

■ アクセス



3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり



*1 全国各地に輪島塗購入の積み金を行うグループを作り、そのお金でまとまった漆器を購入する仕組み

■ 当社のこだわり

見本市のディスプレイは毎回変えて、全国の業者へ発信します。



輪島塗の伝統技法で加飾を施します。



塗る直前にゴミが入らないように漆を漉します。 ⇨ 大切な上塗りは手仕事です ⇨ 手板に箸が並べられます。 ⇨ 塗師風呂の中で湿度と温度の管理をしながら乾かします。

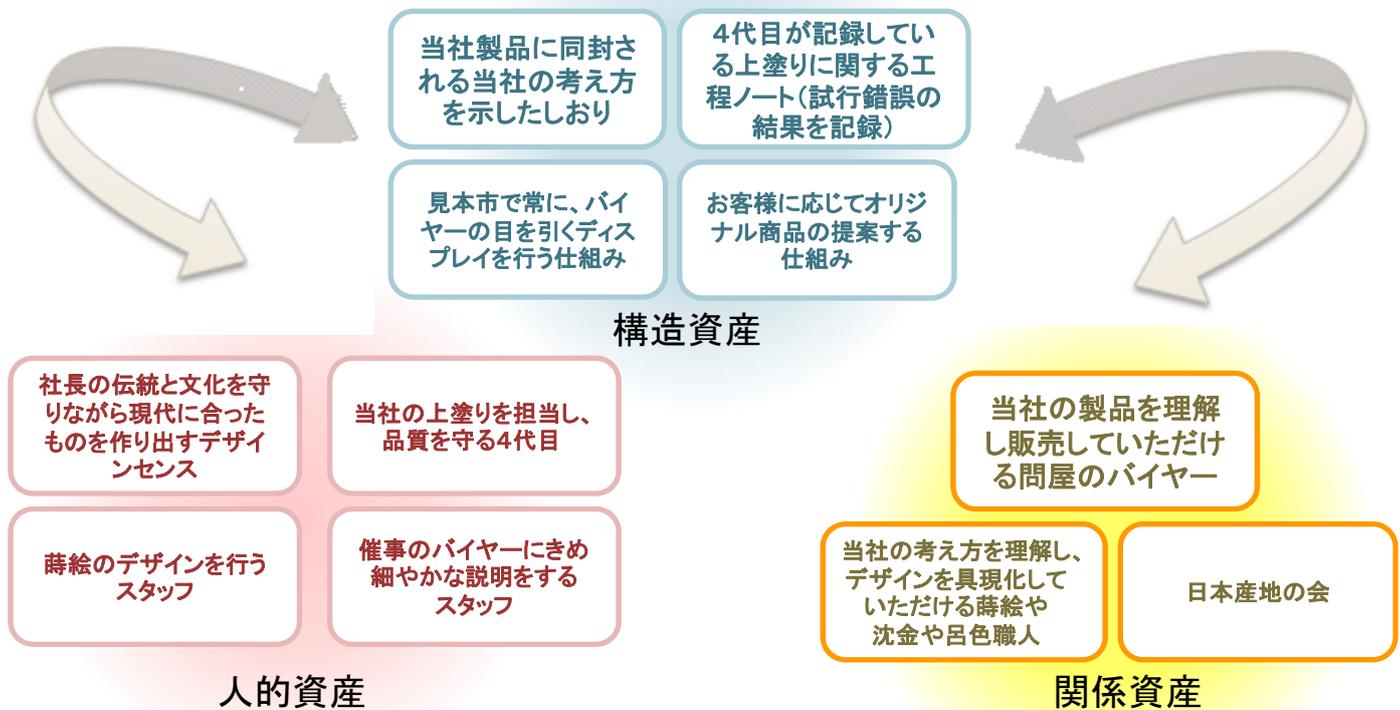


4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

あーと・きよのブランド	米屋万右衛門ブランド	伝統と文化を守りながら現代人の心に響くデザインや製品
<p>輪島塗の良さを分かっただけで満足するのではなく、うるしを身近に感じてほしい。そのために当社は、もっと輪島うるし箸を利用して手軽な価格帯の携帯ストラップを開発しました。時代に合ったデザインで地元生産の土産品として好評を得ています。この商品の営業がきっかけとなり、新規取引が増えました。</p>	<p>当社は代々「万右衛門」の屋号で商売を行っており、大正時代に輪島で米屋を開業しております。平成7年に現在地に新工房を設立するに当たり、日本人として切り離すことのできない米、先祖の食に対する思いをくみ取り、「箸と器 米屋万右衛門」を商標登録しております。</p> <p>当社は、従来の問屋主体の製造業が成り立たなくなった際に、飛び込み営業から始め、石川県産業創出支援機構の支援により様々な展示会、見本市に参加しております。その結果、現在は「日本産地の会」に加盟し年2回の見本市で全国発信しています。</p>	<p>当社は、箸を通じて輪島塗本来の美しさを伝えていきたいと考えております。そのため、当社は伝統文様を現代風にアレンジするだけではなく、繊細な蒔絵や力強い沈金で表現し、それを際立たせる呂色仕上げを行っております。当社は、伝統と文化を守りながら現代に合った製品を提案することを基本としております。</p>

■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



【提供する顧客価値】

伝統と文化を守りながら、現代に適した商品づくり

当社は、伝統や文化を守りつつ、現代に適した商品づくりを目指しております。そのためには、社長のデザインセンスや4代目の上塗り技法や蒔絵のデザインを行うスタッフがいないでは実現できません。また、当社は、問屋のバイヤーを通じて販売を行っているため、当社の製品を理解いただいているバイヤーさんやバイヤーさんに当社の製品や考え方を理解いただく仕組みは非常に大切です。また、当社の考え方を理解し、デザインを具現化いただける加飾職人がいないでは、当社の商品が世の中に出ることはありません。これらの知的資産の1つ1つが当社の顧客価値を支えているといえます。

5. これからの挑戦

- 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

米屋万右衛門ブランドの強化

当社は、問屋を通して販売することから自社の企画や想いが売り場で手に取ってくれるお客様に伝わるように、商品構成やデザイン、パッケージ、しおりなどを充実させていきます。

さらに、当社製品を定期的に見本市で発信することにより、米屋万右衛門ブランドを強化していきたいと考えております。

お客様と加飾職人との懸け橋

当社は、バイヤーさんの希望を基にデザインし、加飾職人にサンプル作製を依頼します。当社は、お客様の要望に応えられているかを基軸に納得のいくまでデザインを修正します。当社は、このように地道な作業を繰り返すことで、お客様と加飾職人の懸け橋となり、お客様の要望をできる限り具現化することに努めます。

伝統を守りつつ現代に適した展開

従来の朱と黒だけでなく明るい色調の色漆を活用した商品開発に取り組みます。

また、伝統文様に加え、オリジナルキャラクターや可愛いデザインを取り入れ、若い層がうるしの箸に興味を持って、食事の時間を楽しめるような商品開発をしていきます。

さらに商品構成や、価格構成を整理して用途や要望に応じた商品をすぐ提供できるようにしていきます。

6. ～代表者（橋本きよ乃）からのメッセージ～



昭和29年 輪島市生まれ
昭和51年 京都の河合玲デザイン研究所にて基礎デザインやカラーコーディネートの基礎を学ぶ
大阪にて子供服のデザインを行う
昭和56年 結婚を機に本事業に従事
平成18年 食空間コーディネーター資格取得
平成22年 北陸先端科学技術大学院大学石川伝統産業イノベータ養成ユニット修了
当社の代表取締役に就任

◎箸製造という産業

本来輪島塗のアイテムの一つであった箸は、戦後、化学塗料の発達と道具の開発により、安価に提供できる商品として全国展開されて来ました。

輪島の箸製造業は、輪島の家内工業として、また工程の各部門が内職や、出稼ぎ防止の地場産業として、輪島の人々の暮らしを支え、輪島塗とは別の箸製造業として、発達してきました。

当社は、近年、消費者が良質の物を求めるようになり、箸製造業で培った技術と輪島塗の技法を生かした、輪島うるし箸を製造し全国展開しています。

◎三代目として

20代のころ学んだことを、50代になり自分が主体で仕事をするようになって、少しずつ思い出しながら役立てています。

50代から参加したいろいろな勉強会では、知識を習得することより、若い方と一緒に学び新しい感性を身に付けて行きたいと思っています。

亡き主人の意志を引き継ぎ、三代目店主として又初代社長として、箸製造業を守り、次の世代へ渡したいと思っています。

7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士西井克己

当社は、経営理念や社長のコメントからもわかるように箸製造業としての誇りをもって仕事に従事していらっしゃる。そんな第一印象でした。

当社は、社長が数年前より、対外的に営業を開始し、携帯ストラップ等の新しい商品を世に送り出しています。このことから、伝統を守りつつ、いろいろなことに挑戦する気風が伺えます。

そして、自分たちでは決して前に出ず、一貫してバイヤーさんを通じて販売を行っております。このため、商品をバイヤーさんを通じて販売するための資産を多く保有しております。具体的には、見本市で常にバイヤーさんの目を引くディスプレイとすること、バイヤーさんを通じて得られたお客様の要望をできる限り商品に反映する仕組み（自社でデザインして蒔絵師にお願いする仕組み）、当社製品に当社の思いを示したしおりを同封する等であります。これらの多くが当社の構造資産であるといえます。当社が今後もこのスタンスを維持して事業を行っていくためには、さらにバイヤーさんとの関係を強化する必要があるといえます（当社製品のカタログの充実、当社の基本的な考え方を配信すること等）。また、4代目自身の技能向上（人的資産の強化）も必須であるといえます。今後も誇りをもって箸製造を行うことを期待します。

行政書士勝尾太一

株式会社橋本幸作漆器店は、大きな転換期を迎えております。従来からの塗り箸に加え、デザインを重視した蒔絵を施した箸を展開することについて一定の成果を出してきました。これは、社長の持つ発想力やデザイン力という強い人的資産のみならず、社長の発想力やデザイン力を理解するバイヤーの存在（関係資産）なしには、この事業は成り立たなかったといっても過言ではありません。これらの知的資産が、機能することにより箸製造業から箸屋への大きなステップを踏み出す大きな力（ちから）になったことは明らかであります。

社長ご自身の意欲的な創作活動は、新たな事業のきっかけともなった漆塗の携帯ストラップを企画したことからも分かるように、些細なことであっても、“実際にやってみる”という姿勢は、評価されて然るべきであります。社長の存在が、当社にとって欠くことのできない人的資産となっている理由は、その優れたデザインセンスだけではなく、実際にやってみるという実行力にあると言えるのではないのでしょうか。企画、バイヤーとの話し合い、展示会におけるディスプレイ、応談など、現在、社長が執り行っている業務は多岐に亘ります。将来に亘り、継続的に業務を行う際に大きな力として社長の業務を支えることになる管理文書の作成・保存・活用（構造資産）が、今後、強化すべき知的資産となると考えます。更なる発展を期待します。

弁理士横井敏弘

株式会社橋本幸作漆器店（以下、当社）は、輪島の加飾（蒔絵など）にこだわり、新しいデザインの商品を提供してまいりました。新しいデザインの商品は、当社の一貫生産体制によって実現されており、当社の強みにもなっております。また、ディスプレイのアイデアも豊富で、新しいデザインの商品であっても、お客様がその利用シーンを想起し手にしやすいように工夫しております。

当社は二つのブランドを有しております。一つは、「米屋万右衛門」であり、輪島塗本来の美しさを体現する商品群となっております。もう一つは、「あーと・きよの」であり、女性目線の商品コンセプト・デザインを前面に出した商品群となっております。これらの商品群は、それぞれバランス感覚のよい、値ごろ感のあるラインナップとなっており、ブランドの使い分けにより、お客様にも理解してもらいやすいよう整理されております。

社内体制につきましても、技術ノウハウの伝承の必要性・重要性に気づき、具体的に対応策を採られている点が好印象でした。

今後も、順調に成長されることを期待しております。

8. 知的資産経営報告書とは

【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

知的資産のイメージ



【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営報告書作成事業」により作成いたしました。